

こども

かん きょう ぱく しょ

環境白書

2015



教育・学び ~のための 持続可能な開発

ESDは、日本語にすると「持続可能な開発のための教育」という意味の言葉です。これだけ読むと、とても難しい言葉に感じるかもしれませんが、心配ありません！まずは「ESD」という言葉だけを知っていれば、大丈夫です。この3文字のアルファベット「ESD」で、今、世界中の人々が未来の地球を救うために行動しています。

はじめに

『こども環境白書』は、環境省が毎年作成する『環境・循環型社会・生物多様性白書』をもとに、小学校高学年以上のおみなさんに、今、起きている環境問題を分かりやすく理解していただくためにつくられています。

平成26年度は、世界中が取り組んでいる「ESD」という世界共通の解決方法をキーワードにして、さまざまな環境問題と向き合うためのヒントを紹介します。



この白書で登場するキャラクターの紹介

環境省 ESD キャラクター



生物多様性 キャラクター



「環境」を学ぶ前に

Q 「環境」って何？

A 空気、水、食べ物、天気や気候・・・わたしたちの生活に関わり、わたしたちの周りにあるもの、すべてが「環境」です。環境は、みなさんが安心して毎日を暮らすために、とても大切なものです。



Q 「環境省」ってどんなところ？

A 環境省は日本のため、そして地球のために、さまざまな環境の問題に対応し、今の環境を未来につなげるための仕事をしている国の機関です。



ESDとは

毎日の暮らしの中で「考え、学び、気づくこと」

どう考えて何を学び何に気づくのか

詳しくは次のページへ！

ESDで目指す社会

今も将来も、幸せに暮らせる社会

ESDがある



ESDで問題と向き合うための考え方

自分のことだけでなく、世界のみんなのことを考えてみましょう。そして、未来の地球に生まれてくる新しい命や将来の自分、世界中の人々を想像してみましょう。ここでは、ESDの考え方を6つに分けて紹介します。



多様性 いろいろある

世界には多くの国や文化があり、人々の暮らし方や考え方はさまざまです。自然の様子も場所によって異なります。何かを見る時には、いろいろな立場から考えてみましょう。

公平性 一人ひとり大切に

ひとつの地球にみんなの命があります。国や年齢を問わず、誰もが等しく、幸せに暮らせる権利を持っていることを忘れてはいけません。

相互性 関わり合っている

生き物は周りの自然とつながり、人も自然から食べ物や燃料などをもらっています。人同士はもちろん、すべてのものが互いに関わり合っていることを意識してみましょう。

連携性 力を合わせて

一人ひとりの力は小さくても、みんなで知恵や力を合わせて協力すれば、大きなことが成しとげられます。人の意見にも耳をかたむけ、誰かと話し合いながら問題を考えてみましょう。

有限性 限りがある

食べ物や光や電気などは、無限にあるわけではありません。すべてのものには限りがあるということを理解し、未来のためにはどうすればよいかを考えてみましょう。

責任性 自分がやるべきことを

自分ができること、やるべきことを考えて、人任せにしないで、自分から進んで行動することが大切です。責任を持って行動しましょう。

ESDで問題を解決するための工夫



工夫を取り入れて、できることから始めましょう。みんなが取り組めば、その行動は世界に広がります。人々が地球のことを考えて生活することは、ESDで目指す「今も将来も、幸せに暮らせる社会」につながります。



疑問 疑問を持ってみよう

本当に正しいこと？
どんなことにも疑問を持って考え、自分が納得できる理由を探してみよう。

協力 みんなで協力しよう

みんなが協力すれば、できることがたくさんあります。いろいろな人の立場に立って考え、協力して物事を進めてみましょう。

想像 未来を想像して計画しよう

今や昔を考えて、未来を想像してみましょう。どうすればみんなが望む未来になるのか、考え方を工夫して計画することも大切です。

つながり つながりを大切にしよう

毎日の暮らしは、いろいろなものとつながり、そして支えられています。何と何がつながり、関わり合っているのか意識して生活してみましょう。

多方向 いろいろな方向から見てみよう

いろいろな方向から物事を見てみましょう。また、物事を関連づけて考えてみましょう。新しい発見があるかもしれません。

参加 進んで参加しよう

誰かのため、みんなのために、進んで行動してみましょう。自分のできることをたくさん見つかるはずです。

伝言 誰かに気持ちを伝えよう

自分の思ったこと、感じたことは誰かに話してみましょう。周りの人の意見を聞いてみるのもポイントです。



ESD / ESDの考え方と工夫



身近な環境問題をESDで解決

世界には、戦争や食料不足など、解決しなければならぬ問題がたくさんあります。ここで紹介している、みなさんの身の回りで起きている環境問題もそのうちのひとつです。これらはすべて、みなさんの毎日の暮らしや将来に関係しています。また、環境問題は日本だけの問題ではありません。どれも地球全体の未来につながる大きな問題です。

イーエスディー ESDのヒントについて

考え方



工夫



次のページからは、文章の内容に
対応したESDの考え方と工夫を
アイコンで示している所がありま
す。みなさんがESDに取り組む
ためのヒントにしてください。

ESD / 身近な環境問題をESDで解決



- はじめに
- 今から未来まで! 地球を救う! ESD..... P1
- ESDで問題と向き合うための考え方 P2
- ESDで問題を解決するための工夫 P3
- 身近な環境問題をESDで解決 P4

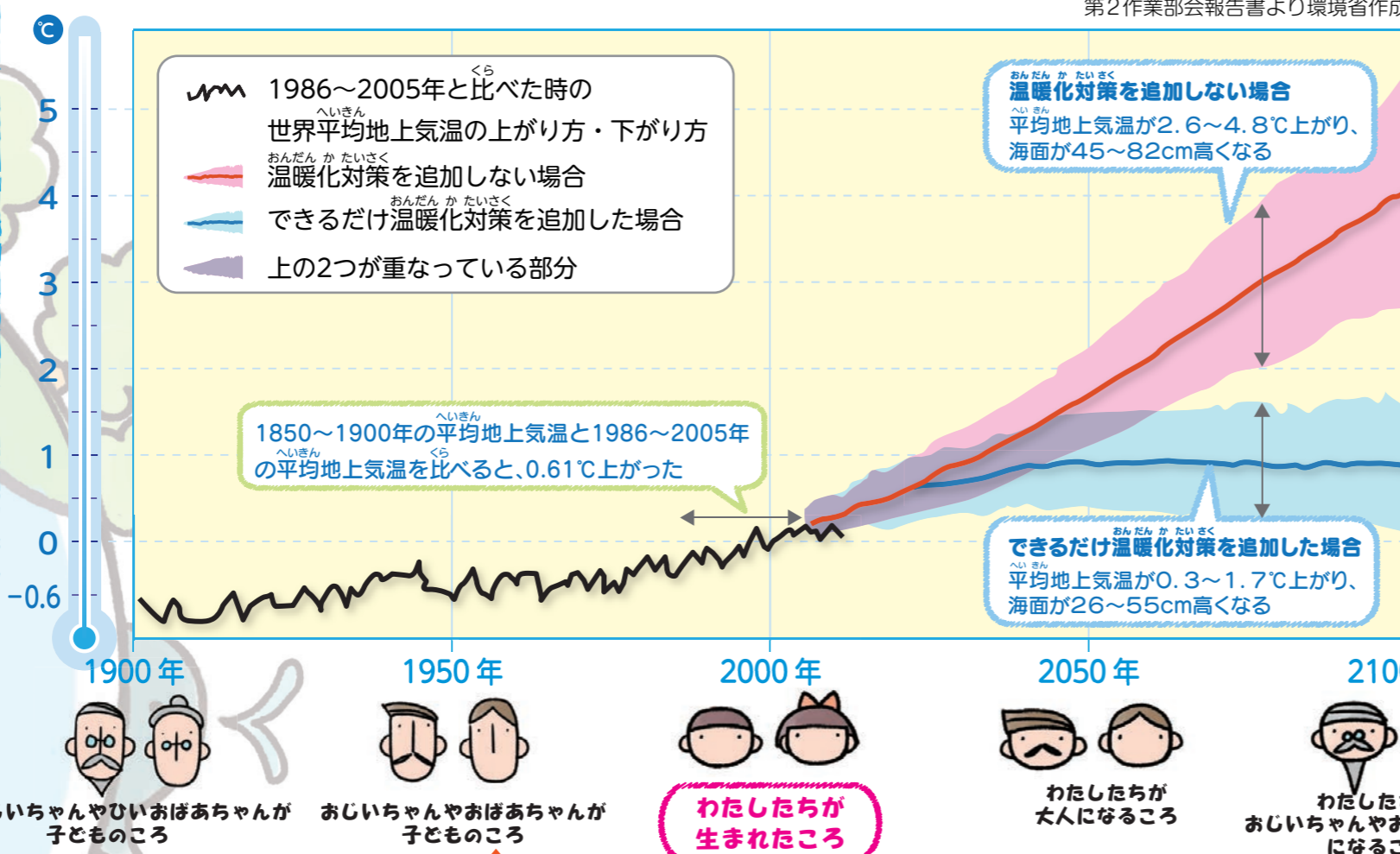
- 東日本大震災からの復興 P22
- おわりに P25



地球がだんだんと暑くなっている

資料: IPCC第5次評価報告書
第2作業部会報告書より環境省作成

地球温暖化の未来予測
(世界平均地上気温の今とこれから)



わたしたちが暮らす地球は、昔に比べてだんだんと暑くなっています。地球全体の平均気温が上がっていくことを「地球温暖化」といいますが、このまま地球温暖化が進めば、世界中の自然や暮らしにさまざまな影響が出てきます。

※地球温暖化については、8~9ページで説明しています

身近な環境問題 / 地球が暑くなっている

知ってる？

地球温暖化が続くと...



北極の氷や雪が減る

北極の氷が減り続け、ホッキョクグマなどの生き物が暮らしにくくなります。



デング熱を流行させる蚊が北へ

デング熱をばいにかする「ヒトスジシマカ」は、現在、秋田県や岩手県より南に生息していますが、2100年には北海道南部にまで北上するという予測もあります。

世界の気温が上がり続けると...

未来予測

1℃高くなると



大雨などの異常気象によるリスク(危険性)が高くなります。また、深刻な影響を受けるリスクにさらされる生き物は、今よりも増えるとされています。

2℃高くなると



環境の変化に適応する能力が限られている生き物は、非常に高いリスクにさらされると言われています。例えば、海水の温度が上がると、サンゴは白くなり、やがて死んでしまうかもしれません。

3℃以上高くなると



グリーンランドなどの氷床が大規模に溶けて戻らなくなるため、海面の高さが上がるかもしれません。



地球温暖化はなぜ起きる? >>> みんなの暮らし方が原因!

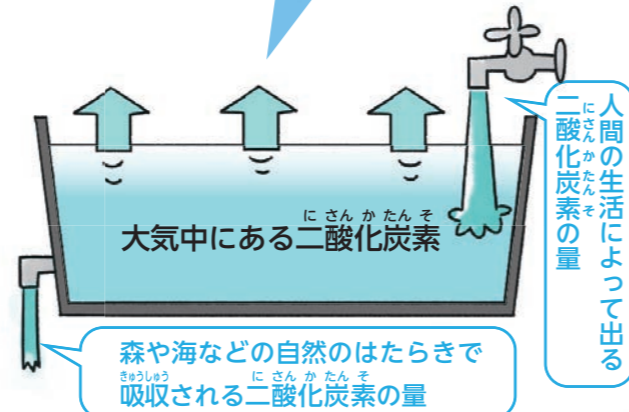
身近な環境問題 / 地球温暖化はなぜ起きる??

おんだんが地球温暖化って?

昔と今の地球を比べてみましょう。地球の表面は、太陽の熱で温められています。余分な熱は宇宙に出ていきますが、その一部は大気中の「温室効果ガス」に吸収されて地球全体の気温をほどよく保っています。

ところが、温室効果ガスが増えすぎると宇宙に出るはずだった熱が地球に残ってしまい、だんだん地球全体の気温が上がってしまいます。これを「地球温暖化」といいます。

人間の生活が地球の二酸化炭素をどんどん増やしている!!
人間が排出している量 > 自然が吸収してくれる量

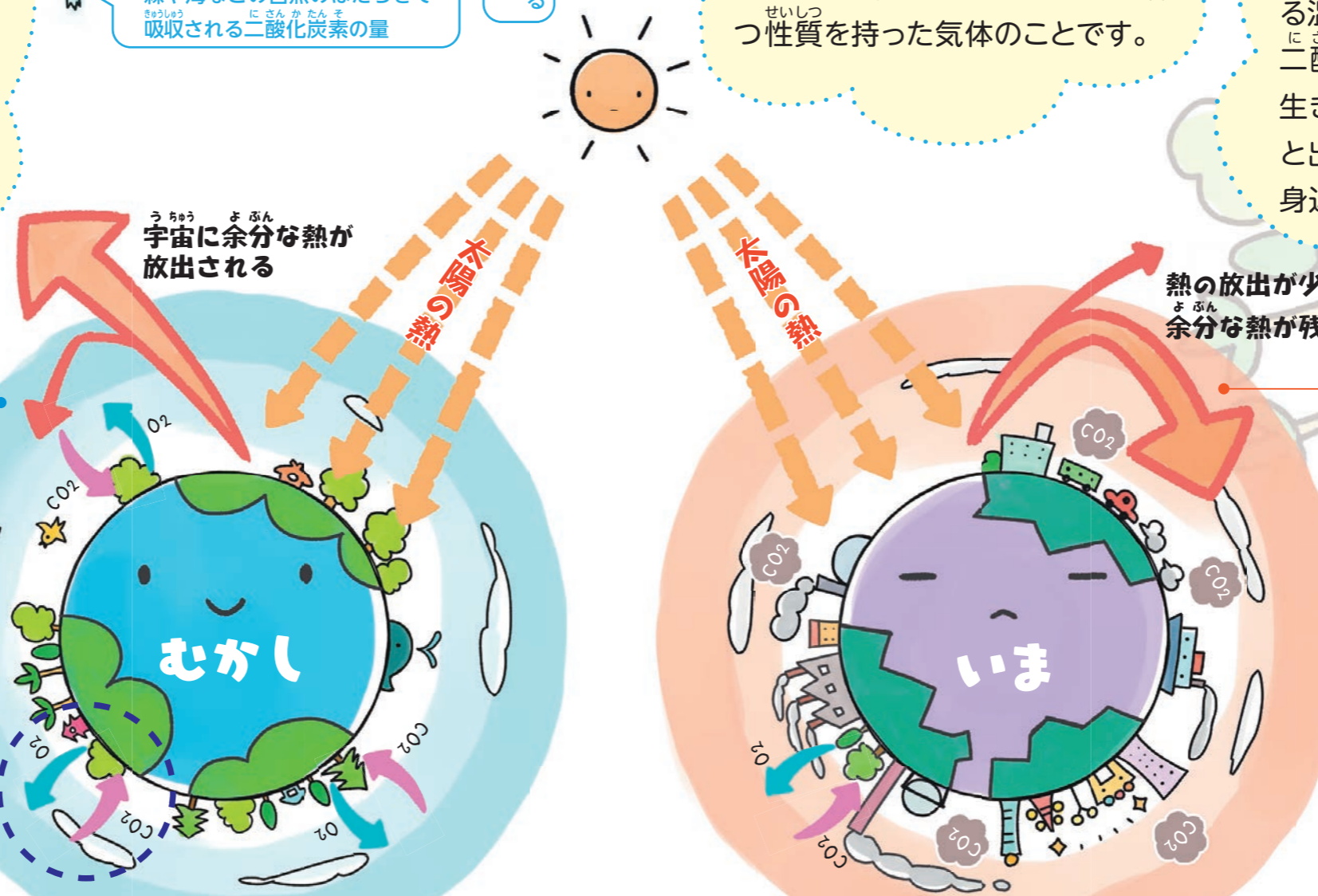


おんしつこうが温室効果ガスって?

地球の表面から出る熱を吸収して、温室効果という地球の温度を保つ性質を持った気体のことです。

にさんかたんそ二酸化炭素って?

二酸化炭素は温室効果ガスのひとつで、今の日本が排出している温室効果ガスのうち約95%は二酸化炭素です。二酸化炭素は、生き物がはく息や、ものを燃やすと出てくる気体にくまれている身近なものです。



地球を温めている適度な濃さの温室効果ガスの層

木や草はCO2を吸収し、O2を出してほす
O2 = 酸素
CO2 = 二酸化炭素

昔は、二酸化炭素の排出が少ない暮らしをしていました

工場や自動車が増えて、二酸化炭素の排出が多い暮らしになりました





今日からできる!

地球温暖化対策

地球温暖化を防ぐためには、毎日の中で二酸化炭素を出す量を減らすなど、わたしたち一人ひとりの行動が必要です。自分ができることを探して、今日から始めてみましょう。

一人でできること



- テレビを見る時間を少なくしよう
- 見ていない時は電源を切ろう
- しばらく見ない時はプラグを抜こう



- シャワーを出す時間は短くしよう



- 照明を使う時間は短くしよう
- 使わない時はこまめに消そう



- 冷房は28℃、暖房は20℃に設定しよう
- 使う時はカーテンを閉めよう



- 短い距離は歩くか、自転車に乗ろう



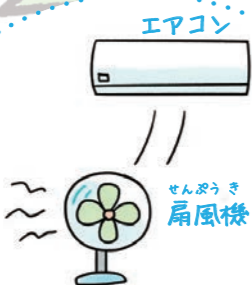
- 夏は涼しく、冬は暖かく、気温に合わせた服装を選ぼう



- 冬は温かいものを食べて、体を温めよう



- 冷蔵庫の開け閉めは短い時間で
- 中身を整理して、ものをつめすぎないようにしよう

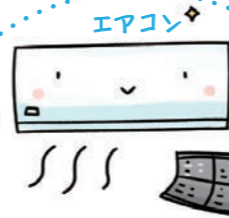


- 扇風機を上手に使ってみよう



- 冬はカーテンなどを閉めて窓やドアから熱が逃げないように工夫しよう

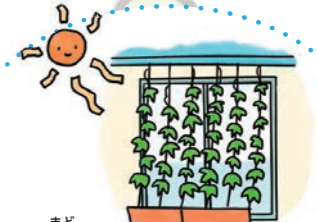
友達や家族とできること



- エアコンのフィルターや照明器具のそうじをこまめにしよう



- 夏は打ち水をしてみよう



- 窓の外に緑のカーテンをつかって、夏の日差しを防ごう



- 家では同じ部屋で過ごそう



- お風呂は冷めないうちに入ろう

ちゃんとできてるかな?

大人の取り組みを見てみよう



- 冷蔵庫はかべや家具から離れているかな?



- エアコンの室外機の周りにものがないかな?



- 長時間の保温をしていないかな?



- 省エネ電球を使っているかな?



- 太陽の光を発電などに活用しているかな?



- レジぶくろを断っているかな?



- お風呂の残り湯を洗たくなどに活用しているかな?



- 車ではなく電車やバスに乗っているかな?



- 車に乗る時は、エコドライブ※をしているかな?

※環境にやさしい車の使い方(車が止まっている時はエンジンを切る「アイドリングストップ」をするなど)



見てみよう、未来の都市のすがた

地球温暖化の原因となる二酸化炭素をなるべく出さず、環境にも人にもやさしい都市をつくるために、さまざまな取り組みが行われています。

環境と人にやさしい未来の都市

未来の都市では、自然の力も最大限に利用して暮らしに必要な電気や熱などのエネルギーをつくり、都市のみんなで分け合いむだなく使います。少ないエネルギーでもみんなが心地よく暮らせるエコ住宅に住み、家の外では二酸化炭素をほとんど出さない交通手段を使って生活します。

環境問題をはじめとした、さまざまな問題に積極的にチャレンジしている「環境未来都市」が全国にあります。



環境未来都市に行ってみよう!

「環境未来都市」はみんなの近くにもあります

1 下川町 (北海道)	6 新地町 (福島県)
2 金石市 (岩手県)	7 南相馬市 (福島県)
3 気仙広域 (岩手県)	8 柏市 (千葉県)
4 大船渡市 / 陸前高田市 / 住田町 (宮城県)	9 横浜市 (神奈川県)
5 東松島市 (宮城県)	10 富山市 (富山県)
6 岩沼市 (宮城県)	11 北九州市 (福岡県)

※この他にも、★で示した①⑨⑩⑪をふくむ23都市が「環境モデル都市」に選ばれています。インターネットなどで調べてみましょう

身近な環境問題 / 未来の都市のすがた

環境にやさしい次世代自動車とLRT

燃料電池自動車

水素を燃料にして発電し、その電気で走ります。排出されるのは水だけで、二酸化炭素をまったく排出しません。

電気自動車

バッテリーに充電した電気で走る自動車です。家のコンセントから簡単に充電できる種類の車も増えています。二酸化炭素をまったく排出しません。

ハイブリッド車

電気とガソリンの両方を使って走る自動車です。次世代自動車の中では、今よりもっと多く利用されています。

LRT (次世代型路面電車システム)

環境にやさしいだけでなく、振動が少なく快適な、新しい路面電車です。

再生可能エネルギーで発電!

太陽や風など自然のエネルギーを利用して得られるエネルギーを「再生可能エネルギー」といいます。石油や石炭などに代わるエネルギーとして利用され、温室効果ガスを出しません。

太陽光発電

建物の屋上などにソーラーパネルを置き、太陽光の力で発電します。

風力発電

風が風車を回す力で発電をします。海の上で行う海上風力発電もあります。

地熱発電

地面の奥深くにある蒸気や熱の力で発電します。

バイオマス発電・熱利用

生ごみや木くずなどの生物資源(バイオマス)を使って発電します。発電の時に出る余熱も利用できます。

海洋発電

海の流れや波の力で発電します。



もう少しでゴミが捨てられなくなる!?

わたしたちが生活する中では、さまざまなゴミがたくさん出ています。人間がたくさんのごみを出し続けていることでいろいろな問題が起きています。

知ってる? 大人になったらゴミが捨てられなくなる!?

知ってる?

大人になったらゴミが捨てられなくなる!?



10才のわたしたち

30才のわたしたち

多くのごみは燃やされたり、細かく砕かれて、最後には処分場に埋め立てられています。しかし、このままではみなさんが大人になるころには、処分場がいっぱいになってしまい、ごみを埋めるところがなくなってしまうとされています。

平成24年度末の時点では、このまま毎年同じ量のごみを出し続けると、あと19.7年でいっぱいになると予測されています。

1年間のゴミの量はどれくらいだろう?

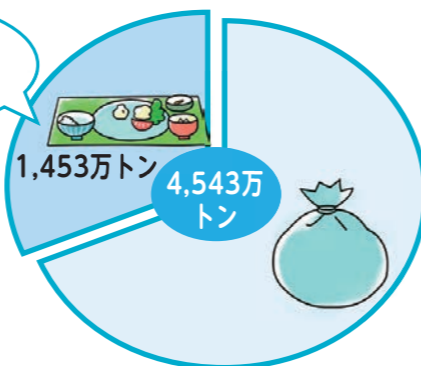
1年間のゴミは4,543万トン!

日本で、1年間に出るゴミの量は4,543万トンです。1人1日当たりでは976グラムのごみが出ています(平成23年度)。

食べ物のゴミは1,453万トン!

お店での売れ残りや家庭での食べ残しなど、食べ物のゴミだけでも1年間に1,453万トンも出ています(平成23年度)。

ゴミ全体の約3分の1は、食べ物のゴミ!



「3R」と「もったいない」が合言葉!

3Rにチャレンジ!

ゴミがあふれている問題を解決するためには、ものを使う量やゴミの量を減らし、くり返し使うこと、またリサイクルすることを心がけて、今までゴミだったものを資源としてくり返し使うことが必要です。誰でも始められる「3R」に積極的にチャレンジしてみましょう!

3Rって?

3つの行動をポイントにして、今までゴミだったものを資源としてくり返し使う活動が「3R」です。3つの行動を示す3つの英語の最初の「R」を表した言葉です。

R リデュース Reduce: 使う資源やゴミの量を減らすこと



- つめかえのできる製品を選んで買う
- 必要のない包装は断る
- マイバッグで買い物をする

など

R リユース Reuse: ものをくり返し使うこと



- こわれたものを簡単に捨てずに修理して使う
- マイはしを持ち歩いて使う
- いらなくなったものは捨てずに必要な人にゆずる

など

R リサイクル Recycle: 使い終わったものを資源として再び利用すること



- 古新聞や古紙を資源回収に出す
- リサイクルボックスでゴミを分別する
- リサイクルされた製品を選んで使う

など

もったいないを探そう



身の回りで、資源がむだになっていることはありませんか? いろいろな「もったいない」を探してみましょう。

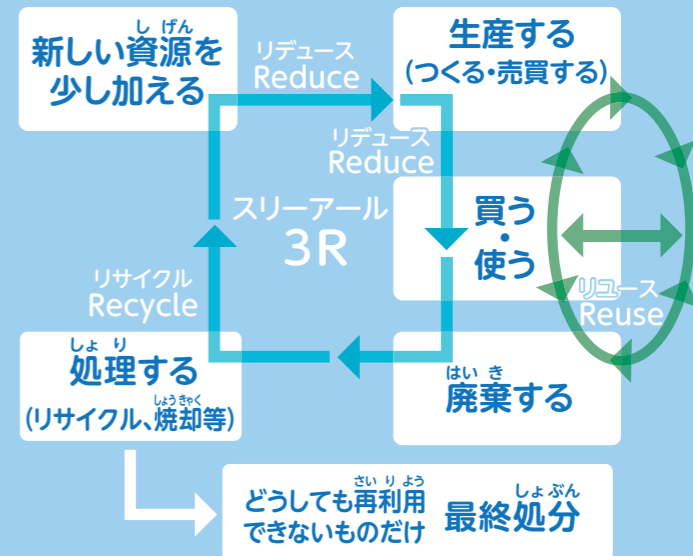
むだのない社会を考えてみよう



今までゴミにしていたものを資源としてくり返し使う、むだのない社会を「循環型社会」といいます。「3R」や「もったいない」という言葉を合言葉にして、どんな行動がむだのない社会をつくるか、考えてみましょう。

見てみよう

むだのない社会でのものの流れ





人間が生き物を絶滅させている!?

地球上には3,000万種もの生き物がいると言われています。しかし、世界ではもちろん、日本でもたくさんの生き物が絶滅の危機にさらされています。

生き物のピンチにできることを始めよう

たくさんの生き物を絶滅のピンチにした原因の多くは、わたしたち人間です。しかし、人間は生き物を守ることもできます。身近なことからできることを探して取り組んでみましょう。

日本では、3,597種がピンチ!

今、日本では3,597種類もの生き物が絶滅の危機にあるとされています。

トキ (野生絶滅※1)

約30年前に日本の野生のトキは絶滅してしまいました。現在は、人工繁殖させたトキを再び野生に戻す取り組みが続けられています。

※1 野生下では絶滅してしまった生き物

ニホンウナギ (絶滅危惧種※2)

日本でよく食べられるニホンウナギという種類のウナギは、国内でとれる量が減り、生息数も少なくなってきているため、日本では2013年に絶滅危惧種に指定されました。

※2 絶滅の危機にある生き物

原因のほとんどは、人間の暮らし

生き物たちが絶滅の危機にさらされてしまっている原因のほとんどは、わたしたち人間の暮らしです。

開発

道路や工場、住宅などをつくるために、生き物のすみかがこわされています。

管理不足

雑木林などの管理が不足しているため、そこをすみかとする生き物が減っています。

獣害

狩りをする人が減ったため、ニホンジカなどが増えすぎて、木や草を食べつくして自然をこわし、他の生き物のすみかをうばっています。

化学物質

農薬などの化学物質が、生き物に悪い影響を与えています。

外来種

外来種が、その地域にもともといた生き物(在来種)を食べたり、すみかをうばったりしています。

地球環境の変化

人間の生活が原因の地球温暖化などによって、今までの生活ができなくなり、絶滅の危機にさらされている生き物がいます。

※もともとはいなかった国や地域に、人間によって持ちこまれた生き物

今からできることを考えよう!



たべよう

地元でとれたものを食べ、旬のものを味わおう

ふれよう

近くの山や川などに出かけて、自然にふれてみよう

つたえよう

自然について学んだことを、家族や友達に伝えてみよう

まもろう

地域の自然保護活動に参加してみよう

えらぼう

減農薬など、生き物にやさしい方法で作られた食べ物を選ぼう

自然と生き物はつながっている



クジラのような大きな生き物から、目には見えないくらい小さな生き物まで、地球上にはたくさんの種類の生き物が生きています。このたくさんの生き物たちは、自然の中につながり、目には見えなくても互いにバランスを取りながら生きています。

これを「生物多様性」といい、生き物の絶滅はこの生物多様性をこわしてしまいます。



自然の一員として、わたしたち人間に何ができるか、考えてみましょう。



世界が注目！日本の豊かな自然

日本には、国立公園に指定されている、たくさんのすばらしい自然があります。その中には、世界自然遺産として世界に知られている場所もあります。日本の豊かな自然は、世界に自慢できるたからものです。



写真(上、右上)：環境省「国立公園カレンダー "2015 Calendar National Parks of Japan"」より

国立公園で自然にふれよう

環境省は、すぐれた自然のある場所を国立公園に指定しています。現在、日本では31か所が指定され、いつまでもその場所の自然や生き物が変わらず生きていけるように、いろいろな楽しみをつくって自然を大切に守っています。近くにある国立公園に出かけて、自然にふれてみましょう。



の豊かな自然



写真：環境省

知床は国立公園のひとつで、世界自然遺産にも登録されてるんだね



日本の世界自然遺産

国際連合の機関のひとつであるUNESCOは、世界中からこの先もずっと残したいすばらしい自然を選び、「世界自然遺産」として登録しています。日本では、屋久島・白神山地・知床・小笠原諸島の4か所が世界自然遺産に登録されています。



環境を守ろう！／日本の豊かな自然

知ってる？

自然林と人工林



森林は生き物が暮らす場所としての役割だけでなく、水をたくわえる、土を崩れにくくする、二酸化炭素を吸収するなどのいろいろな役割を持っています。森林には大きく分けて「自然林」と「人工林」という2種類があります。

自然林は自然の力だけでできていて、いろいろな種類や樹れいの木が生えています。この森林は人間の手を加えずに、そのままの形で未来に残していく必要があります。反対に、人工林は、自然の力だけでなく、人間の力も必要な森林です。森林全体に光が差しこむように、人間が混みすぎた木々の一部を切るなどの手入れを続けなければ、いつか木々は弱り、人工林は森林としての役割を果たせなくなってしまいます。





きれいな空気と水を守ろう

きれいな空気と水は、わたしたちが健康に暮らすために欠かせないものです。昔と今の様子を比べ、どうやってきれいな空気と水を守ればよいか、考えてみましょう。

昔と今を比べるとこんなにきれいに!

昔



過去の川崎市
(写真：神奈川県環境科学センター)

今



現在の川崎市
(写真：川崎市港湾局)

空がとてもきれいになったね



過去の田子の浦



現在の田子の浦

(写真：富士市)

泡だらけだった海が青くなったね



昔の日本では、自動車の排気ガスや工場のけむりで空気が汚れて多くの人がぜんそくで苦しんだり、工場や家庭からの排水で海や川の水が汚れて水生生物がすみにくくなったりと、いろいろな環境問題が起きていました。法律で厳しいルールをつくり、たくさんの方が努力をしてきたことで、今は空気も水も、ずいぶんきれいになっています。

わたしたちの生活と化学物質

わたしたちは生活の中でたくさんの化学物質を利用しています。化学物質は生活を便利にする一方で、正しい使い方をしないと悪い影響を与えてしまうことがあります。

生活で利用している化学物質

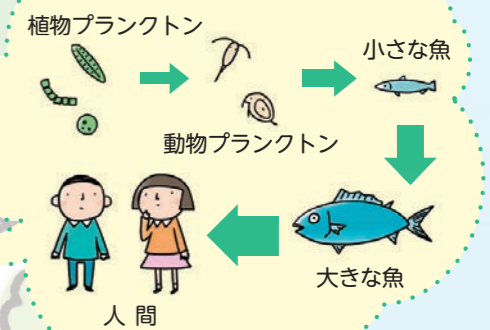
食品	殺虫剤や肥料や農薬	衣類
保存料など かんみりょう 着色料など せんざい	香料など かうりょう 調味料など てんみりょう	殺虫スプレー さつちゆうさい 衣類用防虫剤 いりゆうぼうちゆうさい
洗剤や化粧品	塗料や接着剤	医薬品
洗剤 せんざい	柔軟仕上げ剤 じゆうなん ファンデーション けしやうひん	塗り薬など ぬりぐすり
口紅 くちべい	のり	飲み薬・塗り薬など のみぐすり

化学物質の怖さとおつきあい方

たくさんの種類がある化学物質の中には、生物濃縮などによって人間や動植物の体に大きな害を与えてしまうものがあります。そのため、国は、化学物質の利用に対してさまざまなルールをつくり、みなさんを守っています。

生物濃縮

生き物の体の中に入った化学物質は、食べる・食べられるという関係が進むにつれて濃くなっていきます。これを「生物濃縮」といいます。



知ってる?

「公害」って何だろう?

「公害」とは、工場でものをつくるなど、人間のいろいろな活動によって空気や水や土が汚れてしまい、健康や生活環境に関する被害が起こることです。日本でこれまでに起こった公害が原因の病気のうち、特に大きな被害を出した右の4つを「四大公害病」といいます。

四大公害病

- ① 水俣病(熊本県水俣市)
- ② 新潟水俣病(新潟県阿賀野川流域)
- ③ イタイイタイ病(富山県神通川流域)
- ④ 四日市ぜんそく(三重県四日市市)

きれいな空気と水を守るために

きれいな空気と水を守るためにできることは何でしょうか? 自分ができていることを考えてみましょう。

空気を守る

例えば

- ✓ 短い距離は歩くか、自転車に乗る
- ✓ 車に乗らず、電車やバスを使う

水を守る

例えば

- ✓ 油などを流しに流さず、新聞紙などに吸わせて捨てる
- ✓ 食器は、いらぬ紙で汚れをふき取ってから洗う



東日本大震災からの復興

平成23年3月11日に起きた地震とそれによる大津波によって、東北地方から関東地方の太平洋沿岸は大きな被害を受けました。

原子力発電所の事故

東日本大震災の地震と津波がもたらした東京電力福島第一原子力発電所の事故によって、大量の放射性物質が野外に放出され、今なお最大の環境問題となっています。

東日本大震災の被害の様子



写真：環境省

放射性物質と除染

放射性物質

放射線を出す物質のことで、もと自然界に存在している物質もあります。東日本大震災で問題となっているものは、原子力発電所の事故で発電所から出てきた放射性物質です。物質が放射線を出す能力を「放射能」といいます。

放射線による人への影響と除染

強い放射線を受けると、人間の体をつくっている細胞のDNA(遺伝子)が傷つき、健康への影響が生じる場合があります。しかし、放射性物質を土などでおおって放射線をさえぎる、放射性物質から距離を取る、放射線を受ける時間を短くする、などにより、放射線の影響を小さくすることができます。「放射性物質がついている土や草木などを「取り除く」「放射線を土などで「さえぎる」「取り除いたものを生活している場所から「遠ざける」」の3つの方法を組み合わせると、放射線の量を減らす「除染」を進めています。

除染作業の様子



道路の除染



森林の除染

放射性物質は土や草木などに付着しています。住宅の屋根やかべなどについた放射性物質はふき取ったり、道路では水で洗い流したり、森林では落ち葉や枝を取り除いたりして除染しています。

汚染された廃棄物の処理

大気中に放出された放射性物質は、風によって広がり、雨などによって地面や樹木などに降り注ぎました。そのため、放射性物質が、わたしたちの生活の中で出されるごみなどに付着し、放射性物質により汚染された廃棄物が発生しました。この廃棄物は、放射能に応じて、適切な方法で安全に処理されます。



災害廃棄物の処理

大津波と強いゆれによって、こわれた建物や家具など約2,011万トンもの大量のがれきが生じました。特に大きな被害を受けた宮城県では、震災より前に宮城県で毎年出していた量の約14年分に当たる約1,171万トンのがれきが生じました。



集められたがれきの行方

被災地に残ったがれきは仮置場に一時的に集められ、資源として活用できるものはリサイクルされて、コンクリートくずなどは土木工事の材料などとして再生利用されます。その他の燃やせるがれきは焼却され、燃やせないがれきは細かく砕かれ、燃やされた灰とともに埋め立てられます。震災では大量のがれきが生じたため、被災地以外の他の市区町村に運んで処理してもらう「広域処理」を進め、東京都や大阪府、北九州市など多くの自治体や民間事業者が協力してかたづけをしました。その結果、平成26年3月末までに、福島県の一部地域以外の処理は終わりました。福島県のがれきの処理については、これからも多くの人たちの協力が不可欠です。

東日本大震災と復興

復興のシンボル「新しい国立公園」



写真：環境省

三陸復興国立公園

日本は、被災した東北地方の太平洋沿岸（三陸地域）の豊かな自然をつないで、平成25年5月に三陸復興国立公園をつくりました。

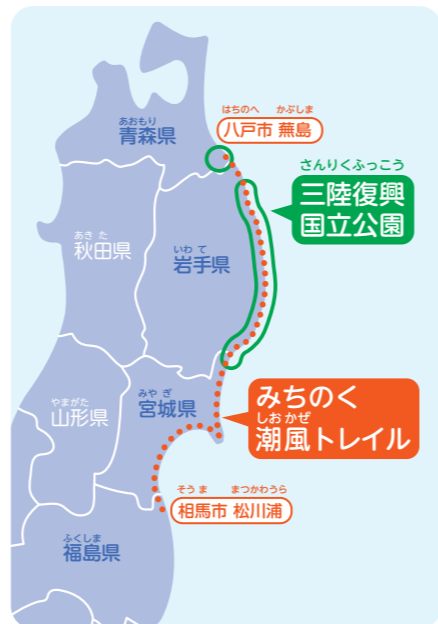
南北に約220km、北部は「海のアルプス」ともいわれる大断崖、南部は入り組んだ地形が美しいリアス海岸が続く広大な公園です。海岸にはウミネコやオオミズナギドリなどの海鳥の繁殖地があり、野生生物を間近で観察することができます。

自然の美しさやおそろしさを学び、人と自然の関わり方を改めて考えられる場として、被災した地域の復興の助けとなることを目指しています。

みちのく潮風トレイル

トレイルとは、森林や原野、里山などにある「歩くための道」を指す言葉です。ここでは、歩くスピードで旅することで、車の旅では見えないたくさんのものにふれ、人と自然のつながりや人と人とのつながりを感じながら歩くことができます。

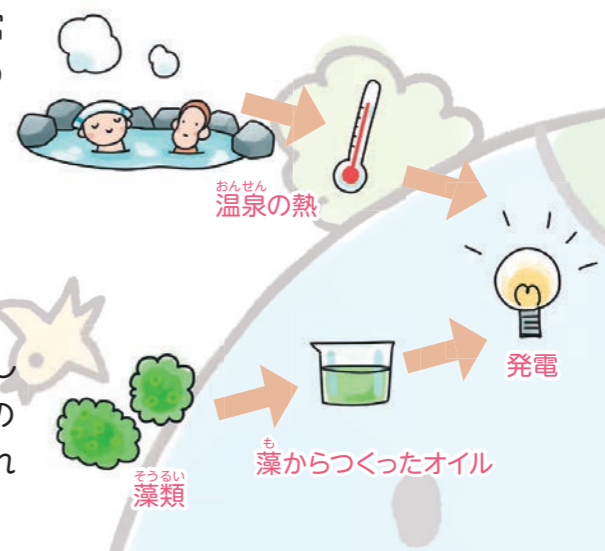
みちのく潮風トレイルは、すべてが開通すると、青森県八戸市蕪島から福島県相馬市松川浦までをつなぐ、全長約700kmの歩道になります。



自然と協力してグリーン復興

地熱を利用した発電

被災した福島県福島市の土湯温泉では、豊富な温泉の熱で発電した電気を用いて地域の復興に取り組もうとしています。



藻類を利用した発電

宮城県仙台市の下水処理場では、藻類を利用して下水の中にくまられる有機物から発電や船のための燃料となるオイルをつくる研究が行われています。



知ってる？ 健康を見守るために

福島県では、震災が起きた2011年から現在まで、放射線による健康への影響を調べる「県民健康調査」を行っています。この調査は、震災の時に福島県に住んでいた子どもたちを中心に、すべての住民を対象にしています。

おわりに・・・

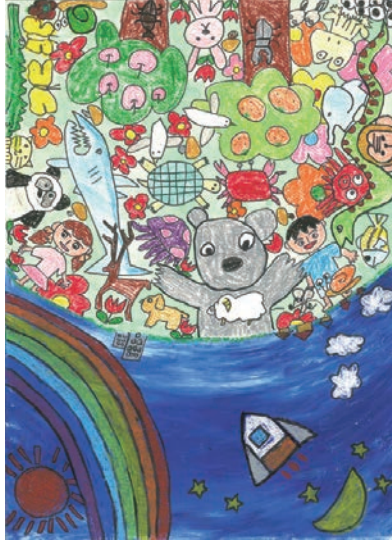
『こども環境白書2015』を最後まで読んでいただき、ありがとうございました。ESDを毎日の中に取り入れ、「今も将来も、幸せに暮らせる社会」を目指すこと、環境問題を解決するために「考え、学び、気づくこと」は、大人から子どもまで、みなさん一人ひとりが今すぐ取り組めることです。未来の地球を救うため、ESDで環境問題を解決してみましょう。



平成27年版環境白書

表紙絵コンクールのおしらせ

今年も環境白書の表紙になる
絵をみなさんから募集します。



平成26年版環境白書表紙絵コンクール

最優秀賞(環境大臣賞)

北海道札幌市立旭小学校1年(当時)

林田 恵太郎さんの作品

問い合わせ先・応募先(作品送付先)

公益財団法人 日本環境協会 環境白書表紙絵コンクール係
〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-4-16 馬喰町第一ビル9階
TEL 03-5643-6251 FAX 03-5643-6250

<http://www.jeas.or.jp/>

※環境省では、作品を直接受け付けておりません。

必ず、上記の応募先にお送り下さいますようお願いいたします。



環境省

Ministry of the Environment

子ども環境白書2015 (平成26年11月発行)

発行 環境省 総合環境政策局環境計画課企画調査室

〒100-8975 東京都千代田区霞が関1-2-2 TEL 03-3581-3351(代)

<http://www.env.go.jp/>

制作 株式会社ドゥ・アーバン

〒153-0042 東京都目黒区青葉台2-21-6 TEL 03-5724-5921(代)